

医療現場のニーズくむ商品開発を

松阪で6社 製品展示し意見交換

松阪市内に本社や事業所を置く中小企業が医療従事者と交流し、現場のニーズに合った商品開発に生かすための製品展示会が21日、同市殿町の松阪市民病院で開かれた。

企業6社でつくる「松阪メディカルメンバーズ(MMM)」の主催。MMMは2022年の設立以降、三重大(津市)や鈴鹿医療科学大(鈴鹿市)なども訪問しており、医療従事者との意見交換を目的とした展示会



企業が出展した医療用製品を見る参加者ら＝松阪市殿町の松阪市民病院で

は今回で5回目。

はじめに、畑地治院長が「みなさんと協力し、松阪から日本や世界に誇れる医療技術を発信していきたい」とあいさつ。看護師や技師が各企業のブースを回り、商品の用途を尋ねたり、現場の困り事を伝えたりした。

保冷剤メーカー「三重化学工業」はジェルで作られた質感が柔らかい冷却剤を紹介。学校の保健室などで採用されており、触り心地や首に巻くことができる使い勝手の良さを説明した。他にも、頸動脈で測定して血流中の異物を検出できる装置や、感染性廃棄物となる注射針を安全に処分できる容器などを紹介する企業もあった。

MMMの岡本宏之さん(53)は「これまでの活動の成果として、本年度は6社が連携して一つの商品を開発し、世に送り出したい」と話した。

(松山聖悟)